京都御苑の魅力を発信

京都御苑 NEWS DIGITAL

楽しむ・知る 御苑の歴史と自然

国民公園協会京都御苑広報誌 京都御苑NEWS vol.160
2025年 9月1日 発行

-CONTENTS-

● 京都御苑の自然シリーズ
京都御苑のアカトンボ

● ー 祝・国民公園協会京都御苑支部創立70周年 ー
京都御苑とは何か

● 京都御苑を支える仕事の紹介
京都御苑の魅力を伝える

京都御苑の自然シリーズ

京都御苑のアカトンボ

京都自然観察学習会　谷　幸樹

京都御苑には四季を通じて多種多様な昆虫が生息しています。昆虫は、トンボやバッタ、セミのように卵→幼虫→成虫と変態（不完全変態）する種と、カブトムシやクワガタムシ、チョウのように卵→幼虫→蛹（さなぎ）→成虫と変態（完全変態）する種がいます。蛹（さなぎ）の期間があるかないかで決まります。ここでは、アカトンボについて紹介します。

トンボは世界で約6,000種、日本では約220種が確認されています。京都御苑では39種のトンボが生息しています。トンボは種によって幼虫期間が長い種と短い種があります。オニヤンマは5年、コオニヤンマは3年、アキアカネは3ヶ月、ウスバキトンボは1ヶ月と種によってさまざまです。

一般に「アカトンボ」と呼ばれ親しまれているトンボはトンボ科アカネ属の種を言います。日本には21種が確認されており、京都御苑ではアキアカネ・タイリクアカネ・ナツアカネ・マユタテアカネ・マイコアカネ・ノシメトンボ・コノシメトンボ・リスアカネ・ナニワトンボ・ネキトンボの10種が確認されています。アカトンボ属のトンボの中には体色が青色のナニワトンボもいます。この種は絶滅危惧種に指定されています。

京都御苑でアカネ属のトンボを観察してみてください。ここでは、ナニワトンボ・アキアカネ・ナツアカネについて紹介します。

ナニワトンボ

ナニワトンボ

アカネ属の中で唯一の「青いアカトンボ」で、成熟雄は全身が青灰色の粉で被われています。日本固有種で、近畿・中国・四国の各地の一部にだけ生息します。レッド・リストのランクはVU:絶滅危惧Ⅱ類*に指定されています。

＊絶滅の危険が増大している種

アキアカネ

アキアカネ

日本固有種で、北海道から九州まで見られ、アカネ属の中で一番普通種でしたが、最近は農薬散布等により、減少しています。

6月から7月に羽化した成虫は、一斉に山に飛び立ちます。京都御苑で羽化したアキアカネは大文字山・比叡山・比良山等の山頂に移動していると思われます。夏の間は涼しい山で過ごし、成熟して赤くなったアキアカネは秋になると一斉に山を下り、京都御苑や水田等で交尾をして産卵します。卵で冬を越して3月頃に孵（ふか）化してヤゴになり成虫になります。

ナツアカネ

ナツアカネ

ナツアカネは、アキアカネのように高山に移動しないで、羽化した近くの森で夏を過ごし赤く成熟します。交尾や産卵は秋に行なわれます。日本全土にみられ、朝鮮半島、中国、台湾にも分布します。

アキアカネとナツアカネは似ていますが、胸の斑紋（はんもん）で区別できるので観察してみると面白いでしょう。

— 祝・国民公園協会京都御苑支部創立 70 周年 —

1955 2025
70th
国民公園協会
京 都 御 苑

京都御苑とは何か

前京都御苑支部長　池田 善一

当協会京都御苑支部の前身である京都御苑保存協会は、1955年（昭和30年）12月に当時の国（宮内庁、厚生省）、自治体（京都府、京都市）、京都の経済界などが連携協力して誕生し、本年2025年はちょうど創立70周年の節目に当たる。この機会にあらためて京都御苑とは何か、振り返ってみたいと思う。

はじめに

人口140万人の歴史文化都市、京都市の市街地中心部に位置する京都御所を擁する広大な緑の空間、それが京都御苑である。京都では多くの観光客が著名な寺社史跡を巡るが、京都御所を訪れる国内外の人々も少なくない。かつて天皇がお住まいになり、千年以上に渡り政(まつりごと)を行っていた場所であることは知られているものの、御所を取り囲む「京都御苑」なるものが一体何であるか知る人は少ないと思う。

江戸期以前

天皇の居所としての京都の歴史は、桓武天皇の平安京遷都（せんと）に始まる。だが、現在の京都御所の位置はその頃のものではなく、さまざまな変遷を経て、室町時代に確定したものである。信長や秀吉による京都の都市改造を経て、江戸時代には御所（内裏（だいり））の周囲には有力公家をはじめ、数百軒からなる公家屋敷街が形成されていた。現在の京都御苑は石積み土塁で四周を囲まれているが、これは明治以降の事業で作られたものであり、以前は周辺の町と地続きでつながるもっとオープンな区域であった。

江戸時代は一般庶民の生活にもゆとりが生まれ、伊勢詣でなど諸国を巡る「観光」が盛んとなり、当時から京都は人気のスポットで、御所周辺も珍しい公家の参内風景が眺められるということで例外ではなかったようである。

京都御苑の誕生

そんな京都も幕末には黒船到来を契機とする尊王、佐幕派など入り乱れての戦乱の場となり、市街地の大半が火事で焼失するなど混乱期を経て、実質的な京都から東京への遷都（せんと）が行われて明治という新たな時代が始まる。平安期以降千年以上続いた天皇の居所としての時代は終わりを告げ、天皇と伴に東京に移った公家達も少なくなかった。天皇という政治・文化の核を失った京都は意気消沈し、宮廷に付随してきた伝統産業も衰退する恐れがあった。このため新たな近代的産業を興そうと京都の人々は琵琶湖から水路を開削する水資源開発、発電事業などを行って日本初の市電も走らせた。

住民が居なくなって空家街と化したかつての御所・公家屋敷街一帯も、この地で生まれ育った明治天皇の想いもあり、産業振興の博覧会場としての活用や新たなオープンスペースとしての整備が開始されていく。「大内保存事業」と呼ばれる国家事業により明治10年（1877）から7年かけて、家屋の取り払い、樹木の植栽など現在の「御苑」につながる公園化が進められた。

京都御苑の骨格がほぼ現在の姿となった大整備は、大正天皇の即位礼に合わせた京都都市改造の一環として行われた。今ではほとんど忘れ去られていることであるが、大正及び昭和天皇の即位礼は、かつての天皇の居所、京都御所で行われたのである。

京都御苑　建礼門前大通り

国民公園としての再生

日本の敗戦で第二次世界大戦が終結し、御所・御苑も占領軍GHQの指導で、東京の皇居外苑、新宿御苑とともに国民に開放された公園「国民公園・京都御苑」となって生まれ変わる。一時期占領軍の住宅用地として接収されそうな事態もあったが、関係者の尽力で免れることができた。御苑の管轄が旧宮内省から京都府を経て厚生省に受け継がれ、新生京都御苑がスタートする。今も苑内に児童公園やテニスコートなどのスポーツ施設があるのは、市民に親しまれる公園を目指した

京都府の意向に拠るところが大きい。

国民公園協会京都御苑も、1955年に発足した京都御苑保存協会が前身であり、国の公園管理を資金的にも支援するため、京都の官民が一致団結して創立したものである。御所前に駐車場を整備して食堂運営も開始し、その収益を御苑の維持管理に充てる仕組みも作られた。一つの合理的な京都の知恵であり、民間活用の走りといえよう。1971年（昭和46年）に環境庁（当時）が発足すると、厚生省から移管されて現在に至っている。

『国の宝』として

明治から大正にかけて御苑整備により植えられた樹々も100年を超える大木となり、京都の街の中心部に深い緑陰を生み出している。貴重な自然の空間はさまざまな生き物が生育・生息する場所を提供し、また、人々が憩い、集い、癒しを感じる場として重要な役割を担うようになった。歴史文化的にも、また成り立ちの経緯からも、歴史と自然が積層する稀有な空間といえよう。京都御苑が『国の宝』として、将来世代に渡り欠かせない存在であり続けることを願っている。

— 京都御苑を支える仕事の紹介 —

京都御苑の魅力を伝える

国民公園協会 京都御苑
広報チーム

私たちは日々、京都御苑の「歴史・自然」に主軸をおいた広報案内業務を行っています。

江戸時代まで天皇が住まわれた京都御所の周囲には、かつて140もの公家や宮家の邸宅が立ち並ぶ公家町があり、さまざまな歴史的な出来事のあった土地でした。そのような特殊な空間が、どのように現在の国民公園・京都御苑へと変化していったのかを中心に、閑院宮邸跡収納展示館で開催しているミニガイドでご案内をしています。

また、ほぼ毎日御苑内を巡回して自然観察・情報収集を行い、SNSや「きせつのたより」（親子向け広報誌）等を通じて四季の魅力を発信しています。

自然に親しんでいただく機会として年に4回、植物、野鳥、昆虫、きのこの各専門講師が生きもの同士のつながりを解説する「自然教室」や、通常非公開のビオトープを年に2回開放し、水辺の生きものを間近に観察できる「トンボ池一般公開」などのイベントも運営。御苑を訪れる皆さま方が生物多様性や自然環境の保全、自然の魅力に関心を持っていただくためのきっかけづくりに貢献できればうれしい限りです。

京都御苑会員募集のお知らせ

■ 会員特典
1. 京都御苑NEWSの送付
2. 葵祭・時代祭の観覧席招待券進呈
（普通会員は会費4,000円以上の方）

■ 年会費
● 普通会員(個人)
……1,000円以上
● 賛助会員(会社・団体)
……10,000円以上

■ 申込・お問合せ
(一財)国民公園協会 京都御苑　☎ 075-211-6364

編集後記

本年3月1日に京都御苑ニュースを再開発行したところですが、経費等諸般の事情により今号はデジタル版でお届けいたします。
2026年には再び紙印刷版も発行できるよう努めますので、読者の皆さま方のご理解と引続きのご愛読をお願いいたします。

『京都御苑NEWS』
バックナンバー/
デジタル版

企画・発行
お問合せ先
一般財団法人 国民公園協会 京都御苑
〒602-0881 京都市上京区京都御苑3
☎ 075-211-6364
監修　環境省京都御苑管理事務所
制作・デザイン　nola株式会社